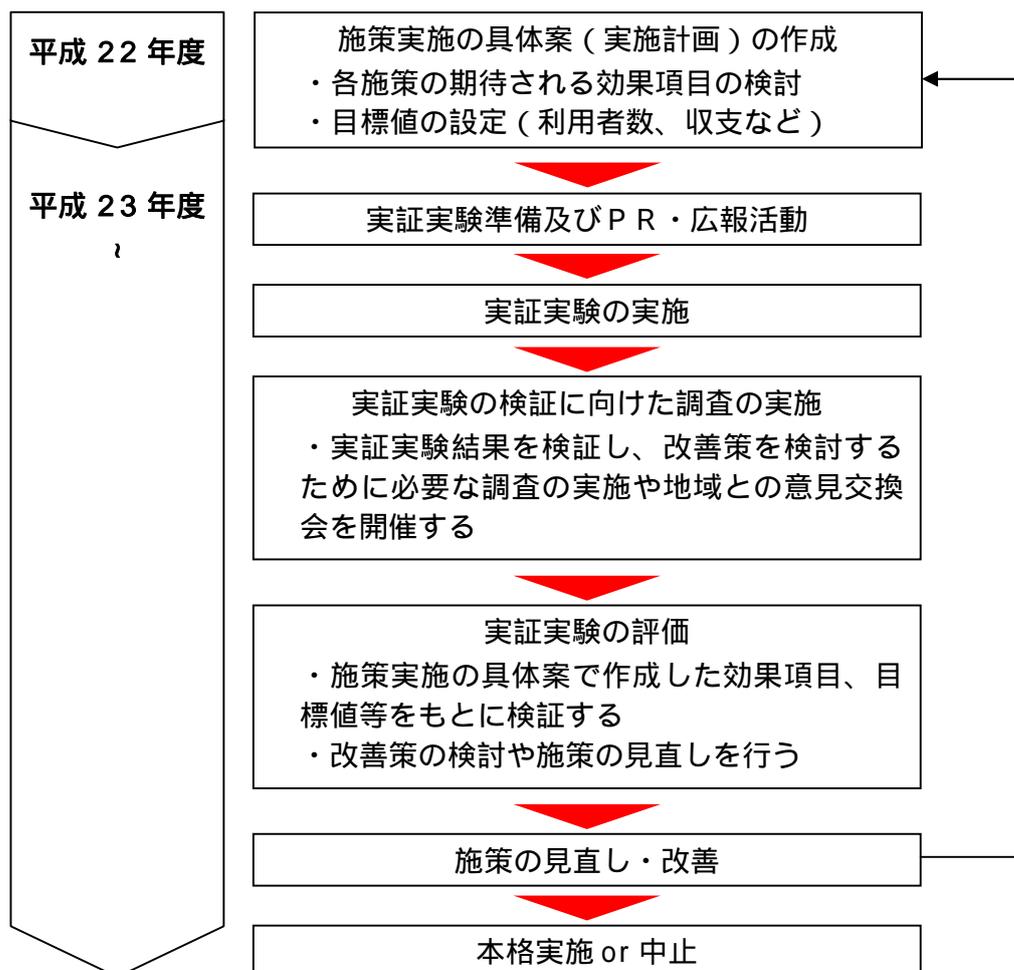


## 実証実験の具体案

## 1. 実証実験の目的

公共交通活性化に向けて検討した施策について、一定期間試行的に実施し、施策の有効性や本格運行に向けた課題を検証することを目的とする。

## 2. 実証実験の流れ



## 3. 実証実験における配慮事項等

運行する地区の規模と生活圏の特性

主な利用者の特性・ニーズ

提供するサービスとコストのバランス

運行主体となる交通事業者の本来の事業との競合

コスト

4. 実証実験内容

(1) 平成 23 年度実証実験 (案)

**実証実験 1**

**簡易デマンド型乗合交通**

運行目的・ねらい

- ・交通空白地域、不便地域の解消
  - ・高齢者の通院、買い物ニーズへの対応
- ( 通院への対応から検証し、利用状況等を踏まえ買い物への対応を検討 )

運行内容

- ・運行期間 平成 23 年 10 月～平成 24 年 3 月
- ・運行日 月曜日～金曜日 ( 祝日、年末年始は運休 )
- ・運行形態 該当地区の各戸～目的地まで
- ・目的地 該当地区内の医療機関、駅、金融機関、公共施設  
商業施設など目的地の拡大、該当地区外への運行は、次の段階までに検討。
- ・運行ルート
 

伊呉野～府屋
勝木～浜新保
荒川地区内～県立坂町病院～坂町駅
神林地区内～県立坂町病院～坂町駅
神林地区内～村上総合病院～村上駅
- ・運行本数 1 日 2 往復～ ( 運行時刻を予め設定 )
- ・利用料金 乗降場所から目的地までの距離区分で設定 ( バス運賃・タクシー料金を考慮 )  
例) 目的地から 5 キロ圏 ( 300 円 )、10 キロ圏 ( 400 円 ) ...
- ・利用方法 事前に利用登録  
前日 / 1 時間前まで 電話 / F A X で予約

検証項目

- ・利用者数
- ・収支率
- ・利用者満足度
- ・乗合状況

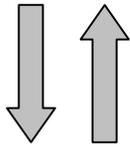
次の段階 ( 検証後の対応 )

効果が得られた場合	継続運行 ( 利用状況等を踏まえ運行方法を改正 )
効果が得られない場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行内容の見直し ( 運行日、運行本数、運行経路以外の運行、料金、予約方法など )</li> <li>・他の手法を検討 ( タクシー利用助成、スクールバス車両の活用、地域でのコミュニティ輸送など )</li> </ul>

簡易デマンド型乗合交通 運行イメージ

運行ルート

地区の自宅（乗降場所：道路状況により集会施設等を設定）



1日 往復運行（平日運行）

目的地（病院・駅・金融機関・公共施設） 予め設定

時刻表

（行き）

	乗車のみ			・・・	降車のみ		
	地区				病院	駅	支所
	A集落	B集落	C集落				
便	8:15～8:35			9:00	9:05	9:10	
便	12:40～13:00			13:25	13:30	13:35	

（帰り）

	乗車のみ			・・・	降車のみ		
	支所	駅	病院		地区		
					C集落	B集落	A集落
便	11:30	11:35	11:40	12:15～12:35			
便	15:00	15:05	15:10	15:35～15:55			

料金（片道）

	～5キ口圏	～10キ口圏	～15キ口圏	15キ口圏～
大人	300円	400円	500円	円

予約と利用

事前		前日までに電話（FAX）で予約が必要です
当日	行き	タクシーが自宅（最寄の乗降場所）に迎えに行きます 予約した目的の施設に到着します
	帰り	予約した目的の施設から自宅（最寄の乗降場所）まで送ります

## 実証実験 2

### まちなか循環バス

#### 運行目的・ねらい

- ・バス網等の利便向上による利用者の拡大（市街地の空白・不便地域の解消）
- ・市内他地区や市外からの来訪者のため、鉄道や周辺地区からの既存路線バスと連絡させることで利便性を向上させ利用者の拡大を図る
- ・高齢者の生活実態を踏まえた便利な交通網に改善する
- ・観光地としての魅力向上による来訪者増加、来訪者と市民の交流、地域への経済波及効果

#### 運行内容

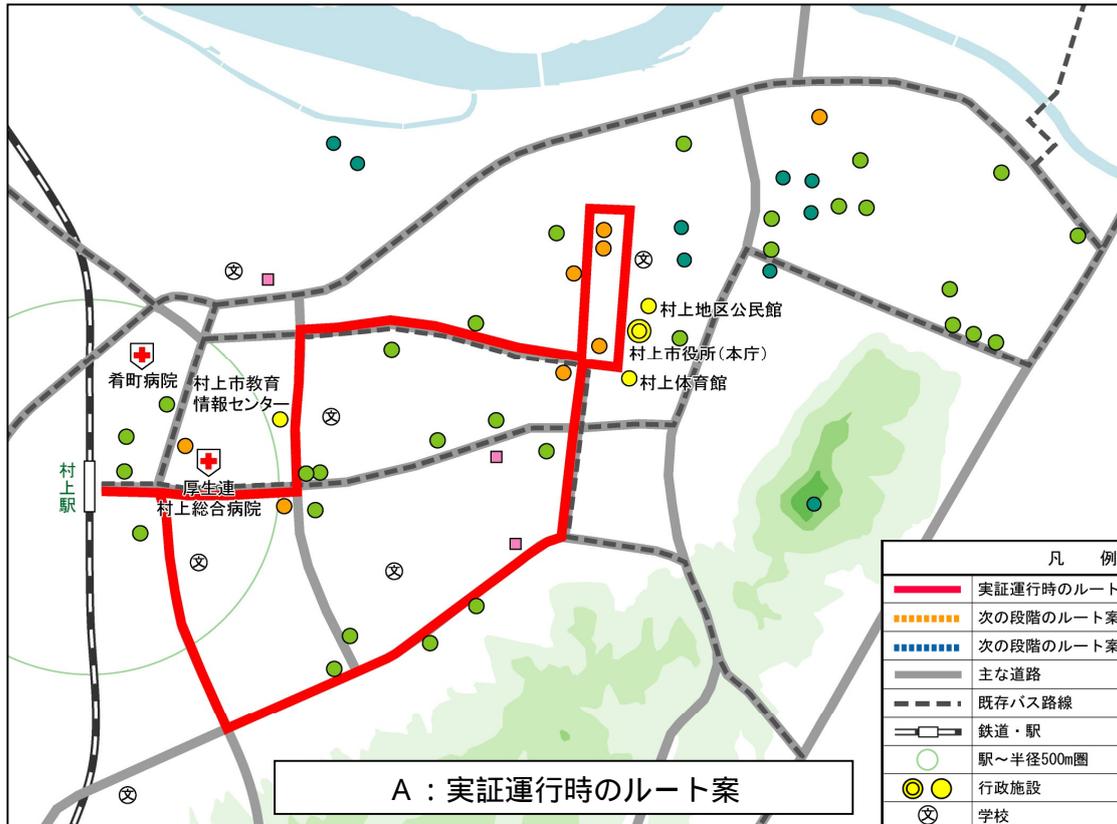
- ・運行期間 平成 23 年 10 月～平成 24 年 3 月
- ・運行日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始は運休）
- ・運行時間 午前 8 時～午後 5 時
- ・運行本数等 1 日 10 便（1 時間に 1 便）
- ・運行形態
  - ・村上駅を起点とした運行
  - ・既存の路線バスの運行ルートの見直し、既存の停留所を活用し、新たな乗降場所を追加
  - 〔新設〕市役所周辺…市役所、金融機関
  - 羽黒町～南町～山居町…個人医院
  - 村上総合病院付近…村上地域振興局側、村上市教育情報センター
- ・利用料金 100 円 / 200 円  
（路線バス初乗り運賃 150 円を基準）

- 検証項目
- ・利用者数
  - ・収支率
  - ・利用者満足度

#### 次の段階（検証後の対応）

効果が得られた場合	<b>継続運行</b> （利用状況等を踏まえ運行方法を改正） < 次の段階 > <ul style="list-style-type: none"><li>・交通網の拡大：小型車両（ジャンボタクシーなど）を活用し、市街地内の幅員の狭い道路を運行</li><li>・観光施策との連携（観光対応の運行ルート、運行日の検討など）</li></ul>
効果が得られない場合	<ul style="list-style-type: none"><li>・運行内容の見直し（運行日、運行時間、運行ルートなど）</li><li>・他の手法を検討（バスやタクシーの利用助成、デマンド型交通の導入、地域でのコミュニティ輸送など）</li></ul>

【村上地区：まちなか循環バスの運行ルートイメージと次の展開イメージ】



凡 例	
<span style="color: red;">—</span>	実証運行時のルート案
<span style="color: orange;">- - -</span>	次の段階のルート案（交通網の拡大）
<span style="color: blue;">- - -</span>	次の段階のルート案（観光施策との連携）
<span style="color: gray;">—</span>	主な道路
<span style="color: gray;">- - -</span>	既存バス路線
	鉄道・駅
	駅～半径500m圏
	行政施設
	学校
	病院
	診療所
	商業施設
	観光施設
	金融機関・郵便局



### 実証実験 3

## 運行ルートの一部延伸（馬下以北）

運行目的・ねらい

- ・交通不便地域の解消
- ・高齢者の通院、買い物ニーズへの対応  
( 通院への対応から検証し、利用状況等を踏まえ買い物への対応を検討 )

運行内容（現行「安良町～馬下線」の運行内容を基本とする）

- ・運行期間 平成 23 年 10 月～平成 24 年 3 月
- ・運行日 現行どおり：月曜日～金曜日（祝日、年末年始は運休）
- ・運行時間 現行どおり：現在利用が少ない時間帯の見直し
- ・運行本数 現行どおり：1 日 2 往復
- ・乗降場所 延伸区間に新たな乗降場所を追加（1 集落 1 箇所程度）  
〔延伸区間〕
  - ・馬下から板貝まで
- ・利用料金 現在の路線バス運賃をベースに算出

検証項目

- ・利用者数
- ・収支率
- ・利用者満足度

次の段階（検証後の対応）

効果が得られた場合	継続運行 ( 利用状況等を踏まえ運行方法を改正 )
効果が得られない場合	・運行内容の見直し（運行ルート、運行日、運行時間の見直しなど） ・他の手法を検討（デマンド型交通、スクールバス車両の活用、地域でのコミュニティ輸送など）

(2) 実証実験準備及びP R・広報活動  
 実証実験準備

〔運行関係〕

- ・運行計画作成
- ・道路運送法手続き
- ・広報活動（市報、回覧等）
- ・説明会
- ・利用登録手続き 等

〔評価関係〕

- ・事前調査（アンケート調査等）
- ・利用者の推計
- ・運行収支シミュレーション 等

P R・広報活動

公共交通の利用促進及び実証実験への参加を促すために実証実験内容（運行手法、運行ルート、時刻表、料金、実証実験期間、利用方法など）について住民に周知します。

P R・広報活動の内容（案）

媒体	内容
チラシ	実施地区での全世帯にチラシを配布する。
広報紙	市報「むらかみ」に掲載する。
ホームページ・情報端末	村上市のホームページや情報告知端末を活用する。
掲示物（ポスター類）	既存路線バス車内、タクシー車内、公共施設、学校等に掲示する。
無料参加の実施	実証実験開始前又は開始当初は利用料を無料にし、実体験してもらう。

(3) 実証実験の評価

施策実施の具体案で作成した効果項目、目標値等をもとに検証し、改善策の検討や施策の見直しを行う。可能な限り、個別の施策単位での評価を行い、本格実施に関する判断材料とする。

実証実験の評価に向けた検証内容（案）

検証内容		検証項目	把握に必要な調査
事業効果	外出機会の増加	外出回数	アンケート調査
	送迎負担の軽減	家族の送迎回数	アンケート調査
	乗り換え利便性の向上	運行ダイヤの見直しによる乗り換え時間	アンケート調査
	わかりやすい情報提供		アンケート調査
	健康増進	利用者の意見	アンケート調査
採算性		利用者数	利用者数調査
		収入と支出のバランス	

5. 取り組みスケジュール

実証実験	22年度	23年度 (事業1年目)	24年度 (事業2年目)	25年度 (事業3年目)	26年度～	
デマンド型 乗合交通	村上市地域公共交通総合連携計画の策定	実験に向けた準備(運行計画の詳細検討等)	第1段階 山北地区 荒川地区 神林地区	第2段階(継続) ・第1段階の検証 (見直し、改善等) ・他地区への展開検討	第3段階(継続) ・第2段階の検証 (見直し、改善等) ・他地区への展開検討	→
まちなか 循環バス			第1段階 ・幹線での 運行	第2段階(継続) ・第1段階の検証 (見直し、改善等) ・小型車両の運行	第3段階(継続) ・第2段階の検証 (見直し、改善等)	→
路線バスの 見直し			第1段階 ・路線延伸	第2段階 ・第1段階の検証等	第3段階 ・第2段階の検証等	→
			・既存路線バスの見直し			→
その他	住民懇談会 説明会等	→				
		10月	10月	10月		